

会 議 記 録				
会議の名称	広報広聴会議			会議場所 全員協議会室
				担当職員 数井
日 時	令和6年11月21日(木曜日)			開 議 午後 1時15分
				閉 議 午後 2時15分
出席委員	◎大塚 ○三上(広報部会長) ○松山(広聴部会長) 竹内 法貴 片山 梅本 林 山木			
執行機関 出席者				
事務局 出席者	数井次長、福沢主査、田中主事			
傍 聴	可	市民0名	報道関係者0名	議員名()

会 議 の 概 要

13:15~

○開 議

<大塚委員長>

議会だより発行やわがまちトークの成功に感謝申し上げます。今日はこれまでの活動を振り返っていきたい。

【事務局から本日の日程説明】

1 広報部会の活動について

<三上副委員長(広報部会長)>

12月議会の報告となるナンバー203号について協議した。12月議会は予算・決算の審査がないため、4、5ページの特集記事をどうするか検討が必要である。毎号3ページが広聴活動のページとしているが、203号は4、5ページも広聴活動に紙面を使うのか、連携をとり相談しながら進めていきたい。また、202号の感想があればお聞かせ願う。

<松山副委員長(広聴部会長)>

202号の広聴活動のページについて、レイアウトがシンプルで見やすくしていただいたところである。市民からの意見として、全紙面カラーとなり分かりやすくなったとの声があったが、部分的に文字が多いとの感想もあった。203号については、復活開催ができたわがまちトークについて、連携して分かりやすく掲載していきたい。

<三上副委員長(広報部会長)>

3から5ページのすべてが、わがまちトークでは市民からクレームがあるかもしれないため、また検討したい。

13:30

2 広聴部会の活動について

<松山副委員長(広聴部会長)>

「わがまちトーク」について、活動報告を行う。当日は委員長をはじめ、広報広聴会議委員に大変お世話になり、感謝申し上げます。今年度は、自治会版として、10月18日（金）に「本梅町自治会」と、各種団体版として、10月8日（火）に「かめたんレザミ t e t o t e」、11月7日（木）に「はたちの会実行委員会」と計3回のわがまちトークを開催したところである。参加者数は、かめたんレザミ t e t o t e が5名、本梅町自治会は地元議員の小林議員と途中退席者1名を含めて24名、はたちの会実行委員会は6名であった。なお、実施形態としては、できるだけ参加された皆さんに発言いただけるよう、議会のファシリテーション研修で実施したように、模造紙と付箋を使用してのグループ形式で行った。アンケートにもあるとおり、グループ分けの方法は好評であり、今後の開催においても継続できればと考えている。また、いただいた要望等の意見については、本日の広報広聴会議において、どのように取り扱うか検討いただければと考えている。参加者に協力いただいたアンケート結果を回ごとにまとめているので確認願う。また、活動を終えての主な委員の意見として、広聴部会では、話していることがうまく書き取れず模造紙に反映されない、一部の人が会話している形でグループ内に共有されず終わってしまっているといったものがあった。活動報告については、市ホームページへ掲載するほか、市議会だよりへの掲載について連携をとって進めていきたいと考えている。広報部会委員からも意見をいただきたい。

<片山委員>

かめたんレザミ t e t o t e は、川東保育所の移転について熱心に話されており、ほかの団体でも市政に対する要望があった。こういった要望をどのように取扱っていけばよいのか課題である。

<大塚委員長>

かめたんレザミ t e t o t e は自主的に応募され、言いたいことを言っておられた感じであり、はたちの会実行委員会は亀岡の将来について思いを語る形にしたので、わがまちトークとしても雰囲気が違うように感じている。はたちの会実行委員会とのわがまちトークにおいて、ファシリテーターをしたがなかなか難しかったのが感想である。

<竹内委員>

参加者側に地域こん談会とは違うことを広報の段階で伝える必要があること、なぜこのテーマとするのかの検証、来られてから席までの動線の案内、アイスブレイクを含めての場づくり、会議をするという固い雰囲気ではなく、音楽をかけるなどの工夫が必要と感じた。また、模造紙は最後にほかのグループが見に来ること、張り出しを行うことを最初に伝えたほうがよかったと思う。

<法貴委員>

本梅町自治会では写真係であり、はたちの会実行委員のときに進行役をしたが、実行委員の欠席が多く、議員のほうが多かったため、固い雰囲気になってしまった。議会だよりの4、5ページを担当するので、また広聴部会から意見いただきたい。

<山木委員>

模造紙への書き出しが難しかった。飲物などはあってもよいと思う。

<松山副委員長（広聴部会長）>

広聴部会として聞きっぱなしであることが課題と感じている。参加者の声が届いていることを目に見えて発信するには議会だよりしかないと思っており、いただいた意見を議会として常任委員会で共有し議論する必要があるのかどうか分からないが、議会だよりへの掲載の仕方は大切であると思う。

<三上副委員長（広報部会長）>

わがまちトークでの意見はあくまで個人的なものであり、これを常任委員会に振り分けて議論することはどうなのか、出た意見は参考として視覚化しておけばよいのではないかと思うし、議員は要望に対して直接実行できる立場ではないので特に返事をする必要はないと思う。議会だよりへの掲載の仕方も載せると責任が伴う場合があるので、あえて載せずにQRコードでホームページに誘導する程度でよいと思う。全体的にわがまちトークはよい方向性で進んでいたと思っており、発表形式はやめてみんなで模造紙を見て回ったほうがよかったと思う。また、かめたんレザミ t e t o t e と本梅町民は問題意識を持って参加されていたので、いろいろな話が展開されたが、はたちの会実行委員会はこちらからわがまちトークの時間をつくって参加をお願いしたため、少し消極的であったかなと思う。

<林委員>

若い人にどうしたら政治に興味を持ってもらえるのか、テーマについても事前に協議することも大事だと思う。

<三上副委員長（広報部会長）>

参加者の中に高校生などの若い人がいれば、なおよいと考える。

<松山副委員長（広聴部会長）>

千代川町でのわがまちトークのときは、自治会長が若い人にも声をかけ呼んでもらえた。今回は付箋と模造紙を使ってグループ形式での取組であったが、これを積み上げていく中で若い人が来てもらえるようになっていけばと思う。また、3回のわがまちトークで進め方などは結構仕上がったと感じている。いただいた意見は三上副委員長からあったように、緊急的なものでなければ常任委員会での議論までする必要はなく、議員と相手方に共有すればよいと考える。議会だよりの見せ方が大切であるので連携して進めていきたい。

<大塚委員長>

それぞれ個性のある、3団体とわがまちトークができてよかった。

<片山委員>

10月から11月にかけて集中的なスケジュールであったので、分散開催はできないのか。

<大塚委員長>

4月頃から募集するため、どうしても秋頃に集中することになる。

<松山副委員長（広聴部会長）>

今回の実績写真を使って募集を募り、わがまちトークを身近に感じてもらえるようにしてもよい。

<梅本委員>

特定の人と話をしてグループ内での討論に参加していない議員がいた。また、はたちの会実行委員とのわがまちトークは私服のほうがよかったかもしれない。

<三上副委員長（広報部会長）>

社会教育課の職員がネクタイなどして同席しているため、議員だけ私服というのも違和感がある。また、各常任委員会からの応援が必要であったかどうか、今回の実績でどれだけの人員がいれば対応できるか分かったと思うので、次回に向けて人数や進め方をより改善して取り組んでいければと思う。

14:14

3 その他

次回開催日 令和7年3月議会 議案送付日の予定

散会～14:15

※散会后、議場にて、Y o u T u b e へ動画編集のための研修会を実施、
基本的に各常任委員会副委員長が編集を実施することとした。